

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200073		
法人名	株式会社 ゆずりは		
事業所名	グループホーム奥町		
所在地	愛知県一宮市奥町前沼33-1 1F		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年12月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様が安心して生活できるよう支援し、行事やその人にあった外出を行なうことで季節を感じ取っていただいております。近くの喫茶店や図書館、買い物に出かけたり、地域の公民館活動にも参加しました。また、中学生の体験学習を引き受けたり、認知症サポーター研修を受講しました。消防音楽隊の演奏会も地域の方々と聞くことが出来ました。傾聴ボランティアの方々にも月2回、来設してもらい、楽しく会話をさせていただいております。家族との信頼関係を大切に、家族会を行ない、交流を深めております。また、運営推進会議の参加をお願いして、意見を述べていただいております。入居者様の健康管理にも気を配り、主治医の先生との連絡を密にして、必要であれば、受診のお手伝いをしております。入居者様の笑顔がみられる元気な施設にしていきたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームが法人代表の敷地内に立地することもあり、地域との交流は自然体で行われている。散歩で仲良くなった近隣住人からみかんや煮物の差し入れが有ったりして、昔ながらの「向こう三軒両隣り」を感じさせる関係である。応援体制も整い、運営推進会議には町内会長や地域を良く知る人たちの参加があり、地域の情報提供がある。町の運動会では、老人会の玉入れに、地域住人に混じり利用者が参加している。地域包括主催の公民館活動のカラオケや演奏会の催しにも活発に参加している。ホーム行事である消防署の音楽隊の演奏、救命救急講習等には、町内に回覧して地域の参加者を呼び、利用者が一緒に交流する機会となっている。理念の「毎日の楽しみを話せる生活を大切にします」を実践すべく、地域の協力を得て、日々メリハリのある生活を支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の楽しみを話せる生活を大切にします。をモットーに、職員には入社時に事業所の理念を伝え、毎月の会議などでも話し合いをしています。	法人基本理念をホームの支援の基本とし、「今を大切に」を目標として掲げている。具体的な個人目標を持って支援に取り組んでいる。管理者と面接、会議等で振り返りの機会もあり、支援の質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、ゴミ出し時、近所の方に挨拶をしています。公民館活動にも参加をしています。地域の方を呼んで、消防音楽隊の演奏を聴いたり、認知症サポーター研修、救命救急の講習をいっしょに受けています。	回覧版でホーム行事への参加を呼びかけ、利用者が地域の行事や公民館活動・サロン等へ参加する等して双方向に交流している。中学生の福祉体験学習に合わせ、サポーター養成講座を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に遊びや相談に来ていただけるよう声かけをし、時々来設してもらっています。認知症サポーター研修や救命救急の講習をホームで毎年行ない、中学生の体験学習も引き受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事、事故報告などを行い、地域の方や、市の職員、包括から意見をいただき、有意義な会議になるよう心がけています。ご家族からもご意見を頂いて、サービスの改善をしています。	運営推進会議を、町内会長・地域住民・地域包括支援センター・家族・利用者等の参加で開催し、活発な意見交換が行われている。会議の中での公民館活動の情報提供から、今年度利用者の地域参加に繋がった。	会議に知見者(他のグループホームの管理者等)の参加を促し、会議内容の充実を図られたい。目標達成計画の進捗状況の評価を行い、運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議はもとより、常に連絡が取れるようにし、アドバイスを頂き、質の向上に努めています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席があり、介護相談員の受け入れ等により、ホームの状況は市の窓口で随時伝わっている。生活保護受給者の関係で、報告や相談を行い、強い協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議で、身体拘束・虐待防止委員会を開いています。出席者で検討をし、職員の共有認識を図っています。日中は玄関の施錠をせず、対応しています。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解し、身体拘束のないケアを実践している。玄関に施錠はなく、3ヶ月毎に委員会を開催し、チェックリストを用いて振り返っている。スピーチロックに陥ることもあるが、管理者・職員はその場で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議で話し合い、虐待行為にあたる事がないよう注意を払っています。また、日々のケアの中でしっかり観察をし、小さな痣も原因を突き詰めるようにしています。勉強会で虐待について、話し合い、虐待廃止検討会も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間では資料を基に理解を深めるように努めています。実際、市役所や各関係者に相談をし、身寄りのない方が、利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアに関すること、利用料金、解約に関すること等丁寧に説明をしています。解約時にも家族に理解を求めています。経済的不安、重度化に伴う機器の負担についても、その都度話をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を記入できる用紙を用意しています。運営推進会議・家族会・面会時に話を聞いて意見を反映できるようにしています。今年も家族会で貴重なご意見を頂きました。ブログも立ち上げました。	家族面会時には、どの職員も利用者の近況を伝えることができ、家族アンケートでは好評を得ている。今年度から始めたホームのブログは利用者の笑顔を伝え、家族から「更新を楽しみにしている」との言葉がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で意見及び提案を聞いています。また、事前に用紙に記入をし、円滑に会議が進められるようにしています。また、日頃から意見を言いやすい環境作りに努めています。	ユニットごとに毎月1回会議を開催している。職員は4月に年度の目標を立てており、半年に1度管理者との個人面談がある。職員からの意見は、管理者が把握して法人代表に報告し、運営に反映させる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、個別にも話を聞き、働きやすい職場を目指しています。施設長会議で話し合いをし、問題点を解決できるように取り組んでいます。職員の評価も行い、介護報酬に活かしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の段階に応じて、研修や講習を受講できるようにしています。そして、会議で発表してもらうことで職員間で共有しています。職場内では1、3、6、12ヶ月のテーマを決めた研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が開催している研修会や講習会に参加させていただいています。また、それを会議で発表し、サービスの質を向上できるよう職員間で共有しています。圏域別地域ケア会議が奥町でも開催されました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活暦を把握し、声かけや、話を傾聴する事で不安を解消できるよう心がけています。また、家族の思い・本人の思いを記入していただいて、参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、契約時に家族の思いや苦労話等を記入していただいています。入居時にも家族の求めている事をゆっくり傾聴しています。主介護者よりも、身内の方とも良い関係が築けるように気をつけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時、入居申し込み時、契約時に福祉用具の購入、訪問リハの必要性などを話し合い、適切なサービスが受けられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち、家族のような関係が築けるよう心がけています。一緒に買い物に出かけたり、家事を手伝っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大事にしなが、面会にみえたときには、家族にも笑顔がみられるよう心がけています。最近家族と外出する方も出てきました。病院受診時も手伝ってくださいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中でなじみの場所などを聞き、他の入居者様と出かけるようにしています。また、親しい方の面会もみられるようになりました。	近所に住んでいた友人が、定期的に訪ねて来る。地域文化である喫茶店モーニングに出掛けたり、墓参りに年2回職員と共に出掛ける利用者もいる。本が好きな利用者には、月2回図書館に出掛ける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には職員が特に関わりを持つようにし、よい関係を築けるよう配慮しています。洗濯物を一緒にたたんだり、車椅子を押ししたり、と出来ない事を出来る人が行い、支えあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了、また相談があったけれども入居されなかった方には電話などで近況の確認をし、相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや暮らし方の希望を聞いています。また、最適な方法を家族とも相談し、毎月の会議でも検討しています。	余り話さない利用者の思いや意向を把握するため、笑顔で話しかけて表情・頷き等を見逃さないように努めている。「朝食にパンが食べたい」との思いに、月末に「パンの日」を設けた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族・本人から生活歴の記入をお願いしています。'家族の思い'の記入をお願いしたり、日々の会話の中から、価値観や地域の関わり方などを把握し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表を活用し、一人ひとりの生活のリズム・日々の変化を総合的に把握するよう努めています。また、看護師や主治医の往診を受け、心身の状態の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、月に1度の会議でカンファレンスを行なっています。面会時ご家族様との話し合いを行い、往診時に主治医の先生から助言を頂いております。職員も介護計画の作成が出来るよう研修を行なっています。	リーダーが毎月チェック表でモニタリングを行い、ユニット会議で共有している。6ヶ月毎に、家族との面談や医師の意見等も取り入れたサービス担当者会議を開催し、介護計画を見直している。	利用者・家族の意向や要望は把握しているが、その人らしさの出た(個別ケア)具体的な介護計画が少ない。思いを叶えるための、達成度が分かりやすい目標設定を臨みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、申し送り表、連絡ノートを利用し、職員間での申し送りをし、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食・外出・病院受診を支援したり、おやつに食べたいものを買に出かけています。家族との時間も大事にさせていただいており、外泊される方もみえます。近く的美容院へ出かけることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお地藏さんへお参りに行き、近所の方に野菜をもらうようになりました。美容院・喫茶店・図書館なども利用しています。また、中学校の生徒とも交流しています。消防音楽隊の演奏を聴く事も出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の往診で、調剤薬局を含め、適切な医療を受けています。緊急時も、適切な処置の指示があり、受診もできます。歯の治療は訪問歯科、認知症は心療内科、白内障の目薬などは眼科を受診しています。	かかりつけ医の選択は自由であるが、全員が協力医を選んで月2回の往診を受け、訪問歯科の往診もある。協力医との信頼関係は構築されている。専門医の受診は原則家族対応であるが、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを看護師に気軽に相談できるような体制をとっています。看護師から先生へ上申も行なっています。訪問看護師にも散歩や話の傾聴を頼み、利用者様が落ちついて生活できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係・夜間の緊急時対応機関として一宮西病院・松原クリニックと提携しています。またさとこまき調剤薬局も敏速に対応していただいています。病院受診や入院・退院時にも相談員・家族との連絡を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・ご家族様に看取りについての話をさせていただき、同意書にサインを頂いています。安心して最期を迎えられるよう主治医・地域包括とも連携をとっています。	医療的ケアがない場合は看取りを行い、今年度1名の看取りを行った。医師・家族・ホームが話し合い、家族の宿泊も支援した。看取り研修では、「ホームは法人代表の敷地内にあり、代表やユニット毎の職員がいる」と伝え、夜間対応時の不安を払拭している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	12月には救命救急の講習を10名が受け、資格証をいただきました。毎月避難訓練を行ない、火災のみでなく、色々な事故にも対応できるよう訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署へ書類を提出し、避難訓練を行っています。自主的な避難訓練も毎月行ない、夜間時、一人体制、近所の方の援助を受けての訓練も行なうことができました。問題点を話し合い、次に繋げています。	ホームでは毎月の避難訓練が行われ、全職員が夜間想定1名の場合で実施している。年2回は、日中に夜間を想定して行い、地域の参加を得て実施している。	夜間の災害発生時には地域の協力は不可欠である。運営推進会議の議題として取りあげ、役割等具体的な協力関係構築に向けて取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として尊厳を持ち、対応しています。個人情報の取り扱いに関しても細心の注意を払っています。	「利用者の否定をしない、嫌がることはしない」をモットーに支援している。職員の打ち合わせは、利用者に聞かれないように台所のカウンター内で話し、イニシャルを使用してプライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様の思いが表現できるよう声かけ・話の傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・気候を配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に接しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔時、鏡を見て身だしなみを整えていただいています。また、訪問美容を利用し、2ヶ月に1度美容師さんにカット・カラーなどをしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事をして頂けるよう食事のメニューについて話をしたり、盛り付け・片付けを手伝っていただいたりしています。今年はメニューを見てもらい、お寿司を注文して食べて頂きました。	配食業者のメニューに基づいて職員が調理するが、利用者にはテーブル拭き、下膳、食器洗い等の役割がある。調査日が月1回のおやつ作りの日であり、クリスマスケーキに苺のへたを取って飾りつけをしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューに関しては業者にお申し、栄養バランスの良いものを提供しています。水分補給に関しても、脱水にならないよう常にお茶を準備しています。刻み食・トロミ食・糖尿食（薄味）での提供もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害による肺炎防止に努めるため、口腔ケアの大切さを話しています。起床時、毎食後、口腔ケアしていただくようにしています。誤嚥を防ぐ為嚥下体操も行なっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、一人一人の排泄サイクルを把握できるようにしています。出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。また、日中はリハビリパンツから下着に替えていただいている方も見えます。	トイレでの排泄を基本とし、利用者に合わせて季節・気温を考慮し、誘導する時間を代えている。夜間放尿の利用者に、足元灯を付けることでポータブルトイレの位置が確認でき、放尿が減った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫をし、排便コントロールが出来るように心がけています。また、身体を動かす事で、楽に排便できるように心がけています。また、主治医の方から下剤等を処方されている方も見えます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ヒノキのお風呂を使用し、安心してゆっくり入浴していただけるよう職員が1対1で対応しています。1日おきを目安にしています。	毎日の入浴準備があり、週3回の入浴を基本としている。ヒノキの浴槽で木の香があり、浴槽の縁を手すりとして使用し、木のぬくもりを感じさせている。利用者の動きに合わせて、ゆったりとした入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活出来るよう支援していますが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしています。部屋の温度にも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師・家族と連携を取り、用法・容量について把握し、スタッフが処方箋により薬の内容を把握し、服薬介助しています。症状の変化についてはスタッフ間の申し送りをもとに主治医に連絡をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	疲れない程度にお手伝いを頼んだり、四季折々の行事に参加していただけるよう声かけをしています。そして、感謝の言葉を忘れないようにしています。チラシを見て、自分の食べたいケーキを買いに行きました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた行事への参加を勧めています。喫茶店・買い物はもとより、お墓参りや図書館などへも出掛けるようになりました。また、中学生の体験学習なども手がけ、一緒に外出しました。家族にも協力いただいています。	日常的な散歩では、近隣の公園や神社、お地蔵さんに出掛け、買い物に行くこともある。習慣のモーニングは全員で出掛け、楽しみの一つである。家族と一緒に日帰り旅行や地域のサロン、公民館活動等に出掛け、定期的に図書館にも外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から、お金を預かり、管理しています。外出時、本人にお金を支払ってもらったりしています。個々に応じた金銭の額は、家族会などで話ささせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会がかなりあり、落ちついて生活してみえます。希望のある方には電話をしていただいています。年賀状を書くようになり、家族からも年賀状が届くようになりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は暖かい雰囲気を作るために電球にも工夫をしています。また南側は木々に囲まれ、窓からは明るい日が差し、暖かい家庭的な雰囲気を作っています。暖房・冷房なども完備し、加湿機なども利用しています。	共有空間は彩光も良く、調理カウンターから見渡せる安全な空間となっている。季節の飾り付けを施し、全員で外出した時の写真が掲示してある。ユニットの外の廊下に、全員で作成した大きなお地藏様があり、毎日利用者が拝みに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方とテーブル席でおしゃべりしたり、畳のところでくつろいだり、テレビを見たり出来るように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、馴染みの物を持って入所され、居心地よく生活していただいています。	ぬいぐるみ・テレビ・化粧品等、思い思いの物が持ち込まれ、整理整頓された居室が多い。入居前の生活の継続を望む利用者は、畳を敷きその上に布団を敷いて寝起きし、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には階段・トイレを除きほとんど手すりをつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるよう、配慮をしています。歩行が不安な方は手引き・歩行器・車椅子等安心できる方法を選択しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200073		
法人名	株式会社 ゆずりは		
事業所名	グループホーム奥町		
所在地	愛知県一宮市奥町前沼33-1 2F		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年12月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者が安心して生活できるよう支援し、行事やその人にあった外出を行なうことで季節を感じ取っていただいております。近くの喫茶店や図書館、買い物に出かけたり、地域の公民館活動にも参加しました。また、中学生の体験学習を引き受けたり、認知症サポーター研修を受講しました。消防音楽隊の演奏会も地域の方々と聞くことが出来ました。傾聴ボランティアの方々にも月2回、来設してもらい、楽しく会話をさせていただいております。家族との信頼関係を大切にし、家族会を行ない、交流を深めております。また、運営推進会議の参加をお願いして、意見を述べていただいております。入居者様の健康管理にも気を配り、主治医の先生との連絡を密にして、必要であれば、受診のお手伝いしております。入居者様の笑顔がみられる元気な施設にしていきたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の楽しみを話せる生活を大切にします。をモットーに、職員には入社時に事業所の理念を伝え、毎月の会議などでも話し合いをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、ゴミ出し時、近所の方に挨拶をしています。公民館活動にも参加しています。地域の方を呼んで、消防音楽隊の演奏を聴いたり、認知症サポーター研修、救命救急の講習をいっしょに受けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に遊びや相談に来ていただけるよう声かけをし、時々来設してもらっています。地域の方にも声をかけ、毎年認知症サポーター研修をホームで行い、中学生の体験学習も引き受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事、事故報告などを行い、地域の方や、市の職員、包括から意見をいただき、有意義な会議になるよう心がけています。ご家族からもご意見を頂いて、サービスの改善をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議はもとより、常に連絡が取れるようにし、アドバイスを頂き、質の向上に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議で、身体拘束・虐待防止委員会を開いています。出席者で検討をし、職員の共有認識を図っています。日中は玄関の施錠をせず、対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議で話し合い、虐待行為にあたる事がないよう注意を払っています。また、日々のケアの中でしっかり観察をし、小さな痣も原因を突き詰めるようにしています。勉強会で虐待について、話し合い、虐待廃止検討会も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間では資料を基に理解を深めるように努めています。実際、市役所や各関係者に相談をし、身寄りのない方が、利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアに関すること、利用料金、解約に関すること等丁寧に説明をしています。解約時にも家族に理解を求めています。経済的不安、重度化に伴う機器の負担についても、その都度話をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を記入できる用紙を用意をしています。運営推進会議・家族会・面会時に話を聞いて意見を反映できるようにしています。今年も家族会で貴重なご意見を頂きました。ブログも立ち上げました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で意見及び提案を聞いています。また、事前に用紙に記入をし、円滑に会議が進められるようにしています。また、日頃から意見を言いやすい環境作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、個別にも話を聞き、働きやすい職場を目指しています。施設長会議で話し合いをし、問題点を解決できるように取り組んでいます。職員の評価も行い、介護報酬に活かしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の段階に応じて、研修や講習を受講できるようにしています。そして、会議で発表してもらうことで職員間で共有しています。職場内では1、3、6、12ヶ月のテーマを決めた研修を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が開催している研修会や講習会に参加させていただいています。また、それを会議で発表し、サービスの質を向上できるよう職員間で共有しています。圏域別地域ケア会議が奥町でも開催されました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活歴を把握し、声かけや、話を傾聴する事で不安を解消できるよう心がけています。また、家族の思い・本人の思いを記入していただき、参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、契約時に家族の思いや苦労話等を記入していただいています。入居時にも家族の求めている事をゆっくり傾聴しています。主介護者はもとより、身内の方とも良い関係が築けるように気をつけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時、入居申し込み時、契約時に福祉用具の購入、訪問リハの必要性などを話し合い、適切なサービスが受けられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち、家族のような関係が築けるよう心がけています。一緒に買い物に出かけたり、家事を手伝っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大事にしながら、面会にみえたときには、家族にも笑顔がみられるよう心がけています。最近は家族と外出する方も出てきました。病院受診時も手伝ってくださいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中でなじみの場所などを聞き、他の入居者様と出かけるようにしています。また、親しい方の面会もみられるようになりました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には職員が特に関わりを持つようにし、よい関係を築けるよう配慮しています。洗濯物を一緒にたたんだり、食器を片付けたり、と出来ない事を出来る人が行い、支えあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了、また相談があったけれども入居されなかった方には電話などで近況の確認をし、相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや暮らし方の希望を聞いています。また、最善な方法を家族とも相談し、毎月の会議でも検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族・本人から生活暦の記入をお願いします。‘家族の思い’の記入をお願いしたり、日々の会話の中から、価値観や地域の関わり方などを把握し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表を活用し、一人ひとりの生活のリズム・日々の変化を総合的に把握するよう努めています。また、看護師や主治医の往診を受け、心身の状態の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、月に1度の会議でカンファレンスを行なっています。面会時ご家族様との話し合いを行い、往診時に主治医の先生からも助言を頂いております。職員も介護計画の作成が出来るよう研修を行なっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、申し送り表、連絡ノートを利用し、職員間での申し送りをし、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食・外出・病院受診を支援したり、おやつに食べたいものを買って出かけています。家族との時間も大事にさせていただいており、近くの床屋へ出かけることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお地藏さんへお参りに行き、近所の方に野菜をもらったりしています。喫茶店・図書館なども利用しています。また、中学校の生徒とも交流しています。消防音楽隊の演奏を聴く事も出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の往診で、調剤薬局を含め、適切な医療を受けています。緊急時も、適切な処置の指示があり、受診もできます。歯の治療は訪問歯科、認知症は心療内科、白内障の目薬などは眼科を受診しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを看護師に気軽に相談できるような体制をとっています。看護師から先生へ上申もなっていました。訪問看護師にも散歩や話の傾聴を頼み、利用者様が落ちついて生活できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係・夜間の緊急時対応機関として一宮西病院・松原クリニックと提携しています。またさとこまき調剤薬局も敏速に対応していただいています。病院受診や入院・退院時にも相談員・家族との連絡を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・ご家族様に看取りについての話をさせていただき、同意書にサインを頂いています。安心して最期を迎えられるよう主治医・地域包括・市役所とも連携をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年12月には救命救急の講習を受け、10名が資格証をいただきました。今年も受講を予定しております。毎月避難訓練を行ない、火災のみでなく、色々な事故にも対応できるよう訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署へ書類を提出し、避難訓練を行なっています。自主的な避難訓練も毎月行ない、夜間時、一人体制などの訓練も行なうことができました。問題点を話し合い、次に繋げています。消防署の検査も受けました。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として尊厳を持ち、対応しています。個人情報の取り扱いについても細心の注意を払っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様の思いが表現できるよう声かけ・話の傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・気候を配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に接しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔時、鏡を見て身だしなみを整えていただいています。また、訪問美容を利用し、2ヶ月に1度美容師さんにカット・カラーなどをしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事をして頂けるよう食事のメニューについて話をしたり、盛り付け・片付けを手伝っていただいたりしています。今年はメニューを見てもらい、お弁当を注文して食べて頂きました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューに関しては業者にお願ひし、栄養バランスの良いものを提供しています。水分補給に関しても、脱水にならないよう常にお茶を準備しています。刻み食・ミキサー食での提供もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害による肺炎防止に努めるため、口腔ケアの大切さを話しています。起床時、毎食後、口腔ケアしていただくようにしています。誤嚥を防ぐ為嚥下体操も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、一人一人の排泄サイクルを把握できるようにしています。出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫をし、排便コントロールが出来るように心がけています。また、身体を動かす事で、楽に排便できるように心がけています。また、主治医の方から下剤等を処方されている方も見えます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ヒノキのお風呂を使用し、安心してゆっくり入浴していただけるよう職員が1対1で対応しています。1日おきを目安にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活が出来るよう支援していますが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしています。部屋の温度にも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師・家族と連携を取り、用法・容量について把握をし、スタッフが処方箋により薬の内容を把握し、服薬介助しています。症状の変化についてはスタッフ間の申し送りをもとに主治医に連絡をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	疲れない程度にお手伝いを頼んだり、四季折々の行事に参加していただけるよう声かけをしています。そして、感謝の言葉を忘れないようにしています。チラシを見て、自分の食べたいスイーツを買いに行きました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた行事への参加を勧めています。近所の散歩・喫茶店・買い物はもとより、図書館などへも出掛けています。ご家族にも協力いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から、お金を預かり、管理しています。外出時、本人にお金を支払ってもらったりしています。個々に応じた金銭の額は、家族会などでお話をさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会がかなりあり、落ちついて生活してみえます。希望のある方には電話をしていただいています。年賀状を書くようになり、家族からも年賀状が届くようになりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は暖かい雰囲気を作るために電球にも工夫をしています。また南側は木々に囲まれ、窓からは明るい日が差し、暖かい家庭的な雰囲気を作っています。暖房・冷房なども完備し、加湿機なども利用しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方とテーブル席でおしゃべりしたり、テレビを見たり出来るように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、馴染みの物を持って入所され、居心地よく生活していただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には階段・トイレを除きほとんど手すりをつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるよう、配慮をしています。歩行が不安な方は手引き・車椅子等安心できる方法を選択しています。		